八犬傳いぬのさゝしま四　上巻

犬傳大迦葉紙

その巻

柳亭種彦 図

曲亭翁賞ていとれ〳〵事有余ゞ新著と上木せんよ画様ハどもあれかくもあれ
画工ハ任せて支足りぬ文字ハ脱さず誤らずカゲヤゲツの瑕なき板傳書彫工の
丹誠こそ作者の楽ふ所なりといとれ〳〵とハ聞けりされども其ハ上手の上ハく
今の作者とハ中ハも思等ハ画とのをかりもて獨能もぬ比翼鳥羽幕片手ノ
焦筆三昧精を縫ども画組さへ拙手の考休ゑく續ハ不測の犬草紙斑る文句ハ
讀本合巻混ハ成ども譴責受ず賞翫あるハ種柄の勝〳〵故と安心るもど久〳〵く
犬士の像と寫ず猶本編ハハ狂言らしき画面もなけもバ只管ハ画師の愛想
憑むハも車下巻ハ画割のたらねバ本文よかくたらず七犬士と画せるる或ハ呂栗
默戯とゐどを画様の割振ハ工夫ハを費て見ゆ鈔録物ゑ日數を經るハ世ハ慚愧き事ハるむ

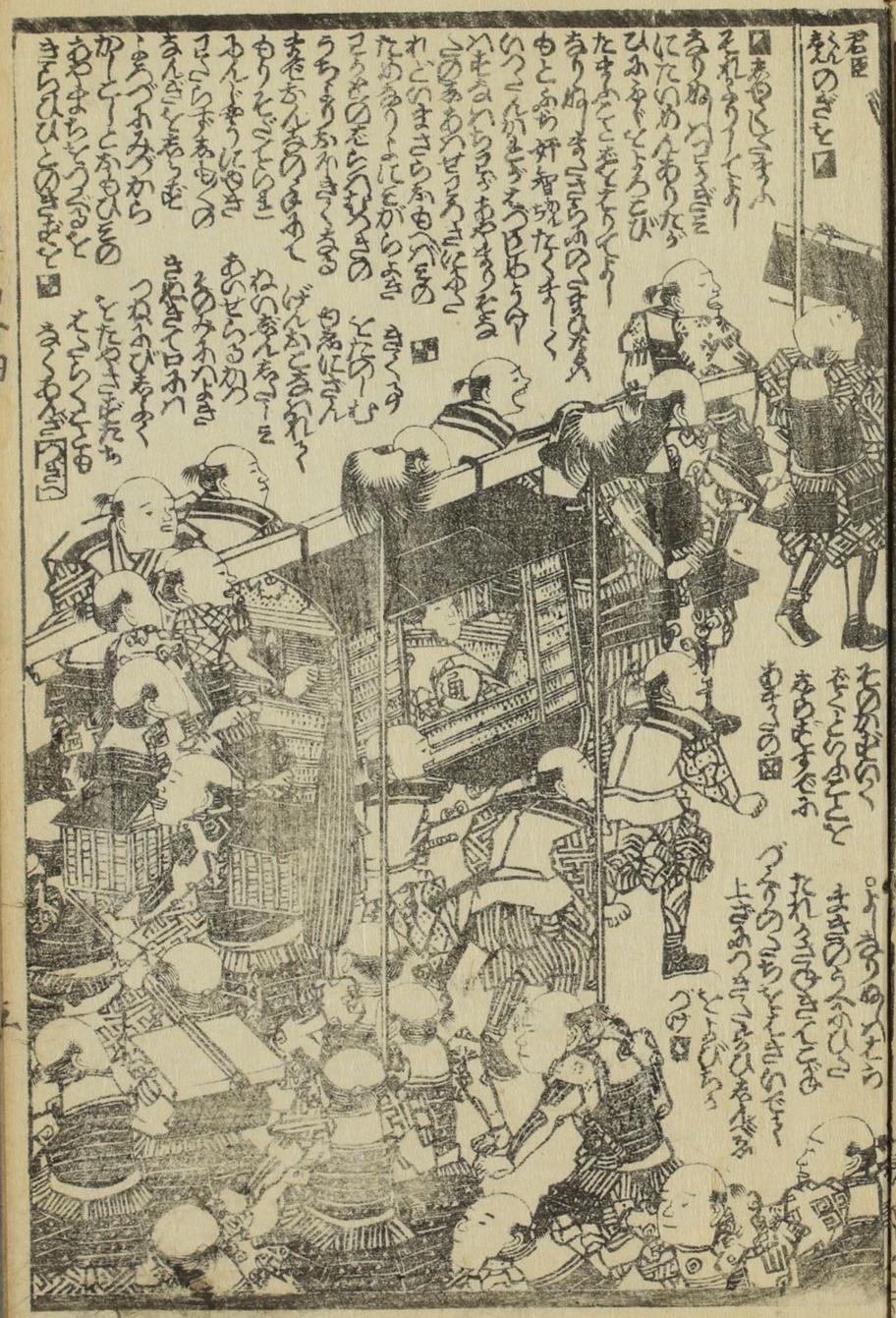
文久二年壬戌端月發兌

のちに
柳亭種彦

荒磯南弥六
妊尼妙情

此七丸若詩
濃路姫

第百八回　義成仁と誠とを兼て刑と賞とを
貞行主従の誤を改て善を養ふ



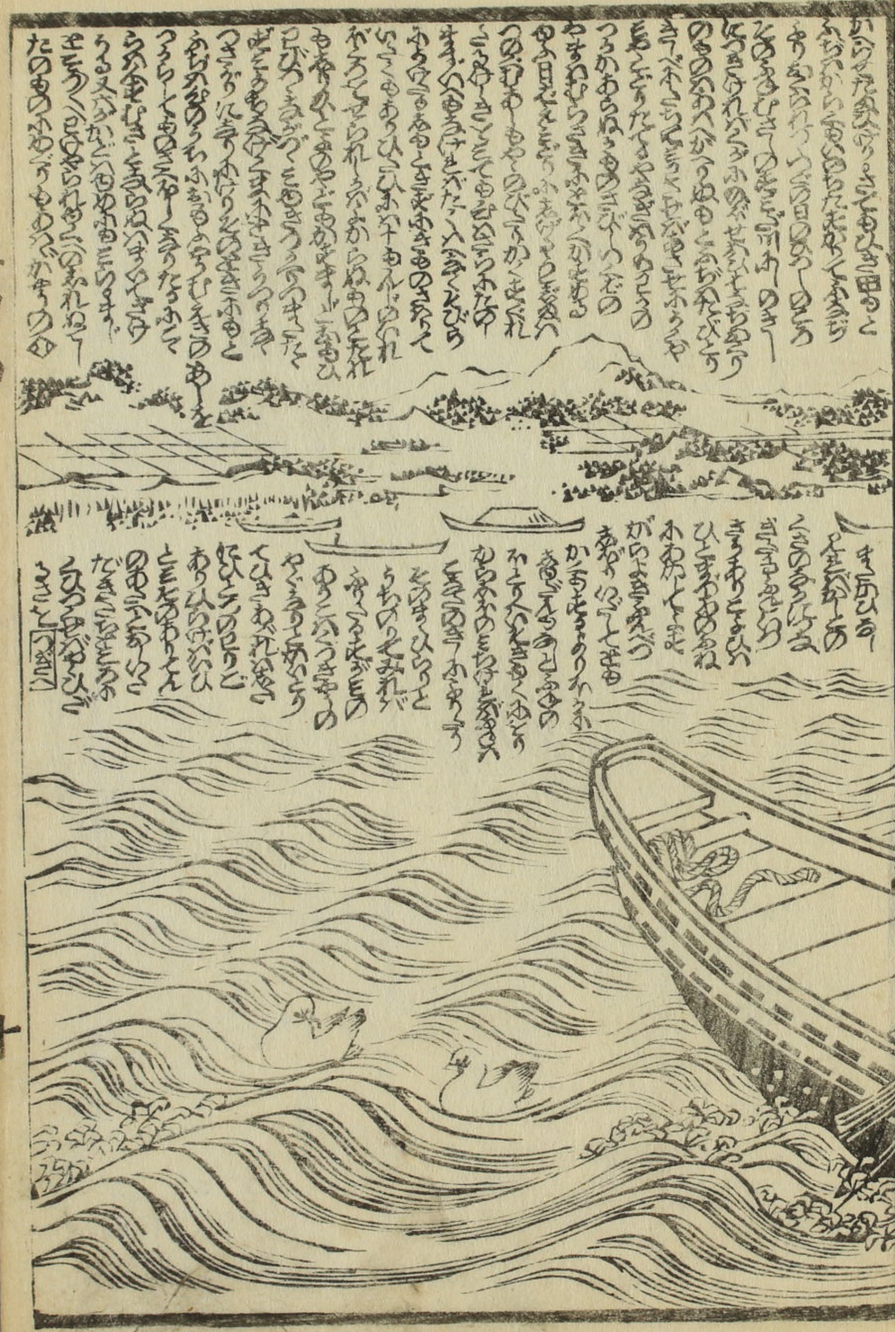
親

頂
金
拭
木

第吉九四

八百九山居し敷物と詩

鹿路姫病様かの鬼と鬼さ。



種彦錄

國綱画

水家

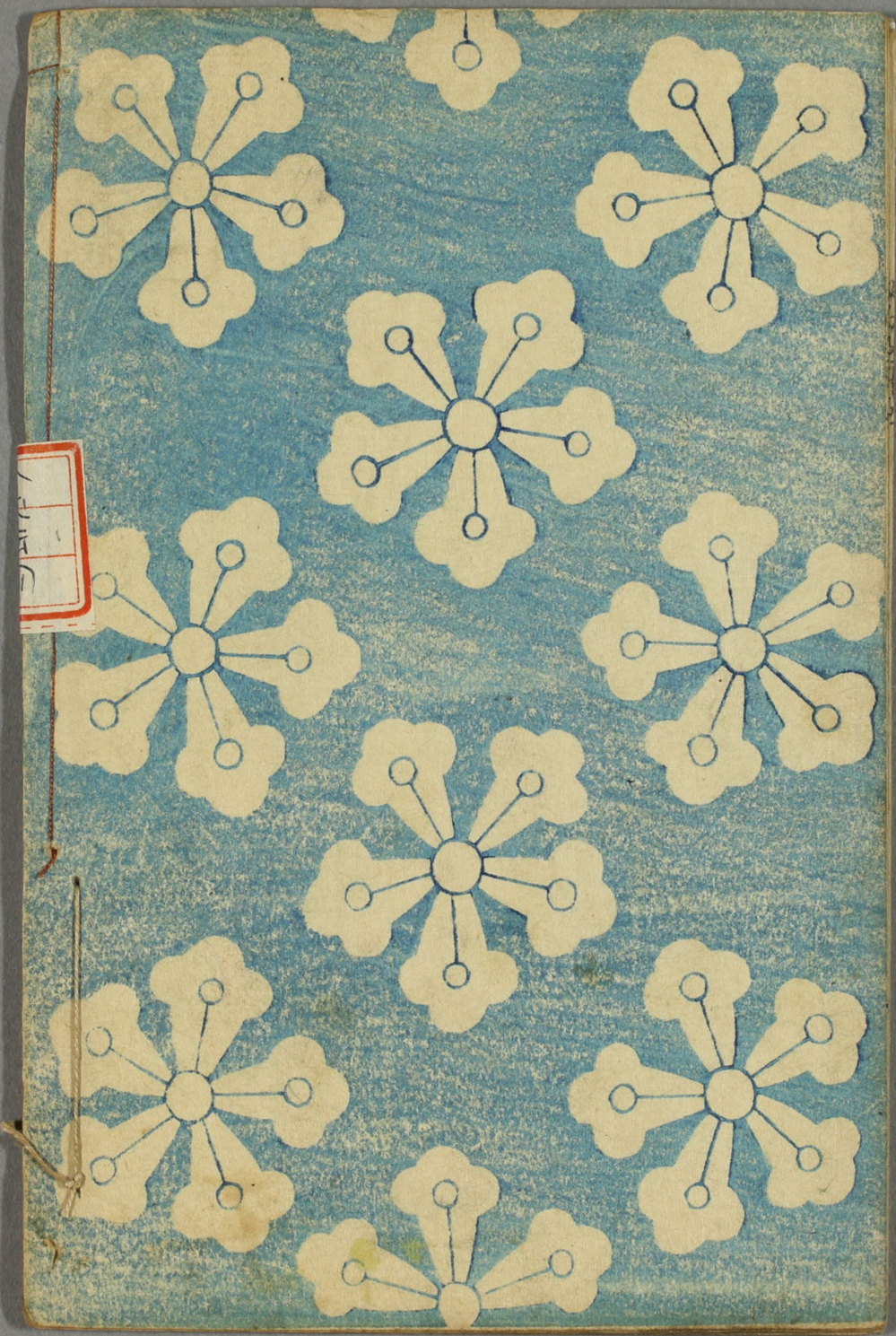
實母散

中橋南傳馬町一丁目東ゝ
千葉堂孝輔製

柳蔭月朝妻

四編より 山々亭有人作
九編迄 梅朝樓國貞画

藪黄鷂八幡不知

山〻亭有人作
錦朝樓芳虎画

當春賣出しの柳蔭月の朝妻殊の外御機嫌よ恊ひ製本手廻らやるる迄ゝ賣捌段外聞旁難有仕合奉存れ夫ゝ御樣ゝ當年彼時頼禪門諸國を經歷在る事を鎌倉潮の深ゝ意ゝ八幡の藪の奥を探りの[illegible]可笑繼爲ゝ作者画工ハ更ゝ言必影摺等迄念を入初編ゝ六七編迄無相違出板仕れ[illegible]長市柳のかげ同樣ひ[illegible]愛顧を蟄玉ひ[illegible]